

ふくい

そのむかし

一面の沼地であつた越前平野一帯が、継体天皇の御偉業により(約一、四二〇年前)豊饒な沃野になりましたが、その後、九頭竜・日野・足羽三川の合流点に近いいまの福井市の附近は北陸道に於ける要衝としてだんだん人家も増え、年と共に町の形を整えるようになりました。

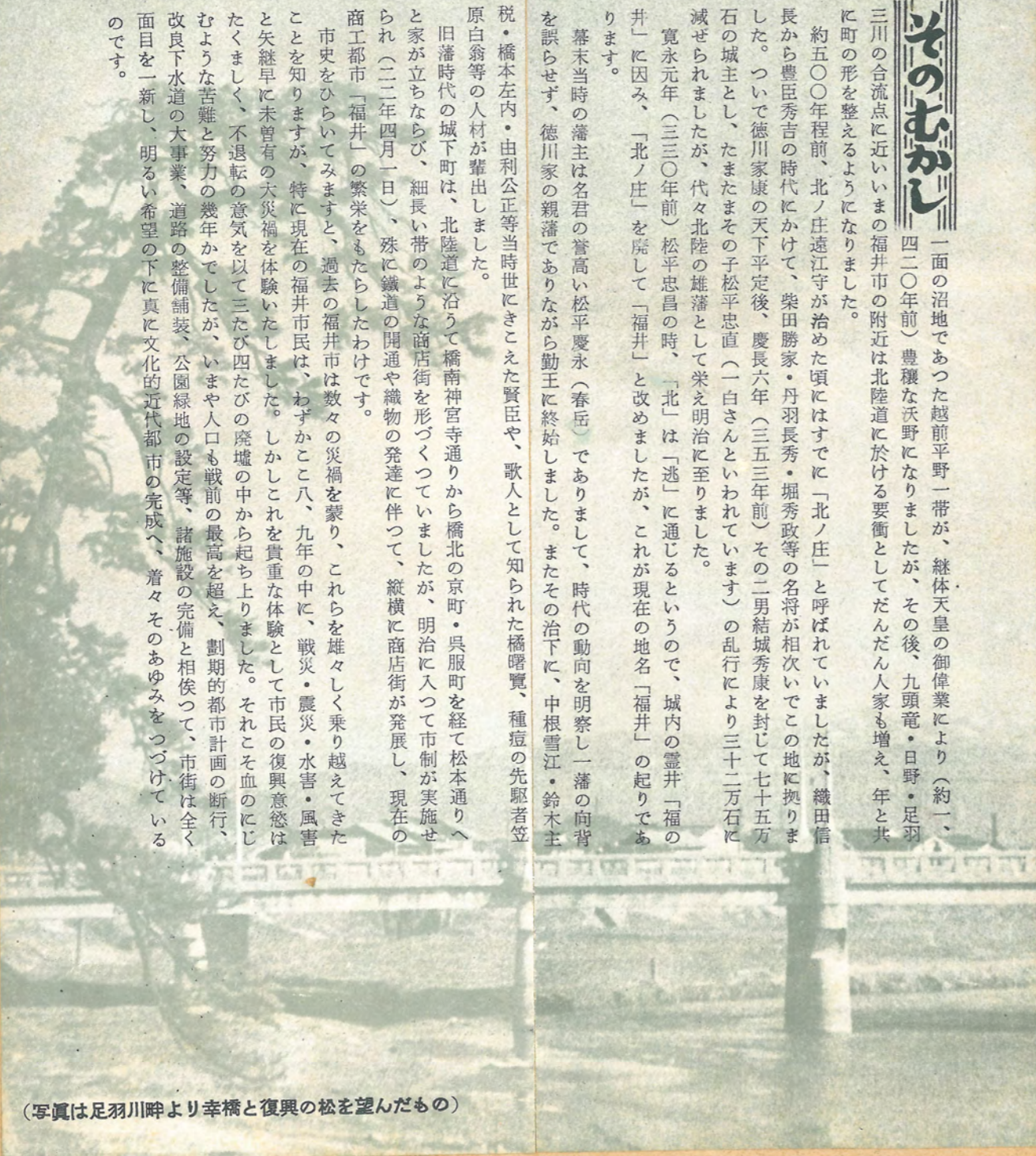
約五〇〇年前、北ノ庄遠江守が治めた頃にはすでに「北ノ庄」と呼ばれていましたが、織田信長から豊臣秀吉の時代にかけて、柴田勝家・丹羽長秀・堀秀政等の名將が相次いでこの地に拠りました。ついで徳川家康の天下平定後、慶長六年(三五三年前)その二男結城秀康を封じて七十五万石の城主とし、たまたまその子松平忠直(一白さんといわれています)の乱行により三十二万石に減せられましたが、代々北陸の雄藩として栄え明治に至りました。

寛永元年(三三〇年前)松平忠昌の時、「北」は「逃」に通じるといので、城内の靈井「福の井」に因み、「北ノ庄」を廃して「福井」と改めましたが、これが現在の地名「福井」の起りであります。

幕末当時の藩主は名君の誉高い松平慶永(春岳)でありまして、時代の動向を明察し一藩の向背を誤らせず、徳川家の親藩でありながら勤王に終始しました。またその治下に、中根雪江・鈴木主税・橋本左内・由利公正等当時世にきこえた賢臣や、歌人として知られた橋曙寛、種痘の先駆者笠原白翁等の人材が輩出しました。

旧藩時代の城下町は、北陸道に沿うて橋南神宮寺通りから橋北の京町・呉服町を経て松本通りへと家が立ちならび、細長い帯のような商店街を形づくっていましたが、明治に入つて市制が実施せられ(二二年四月一日)、殊に鐵道の開通や織物の発達に伴つて、縦横に商店街が発展し、現在の商工都市「福井」の繁栄をもたらしたわけです。

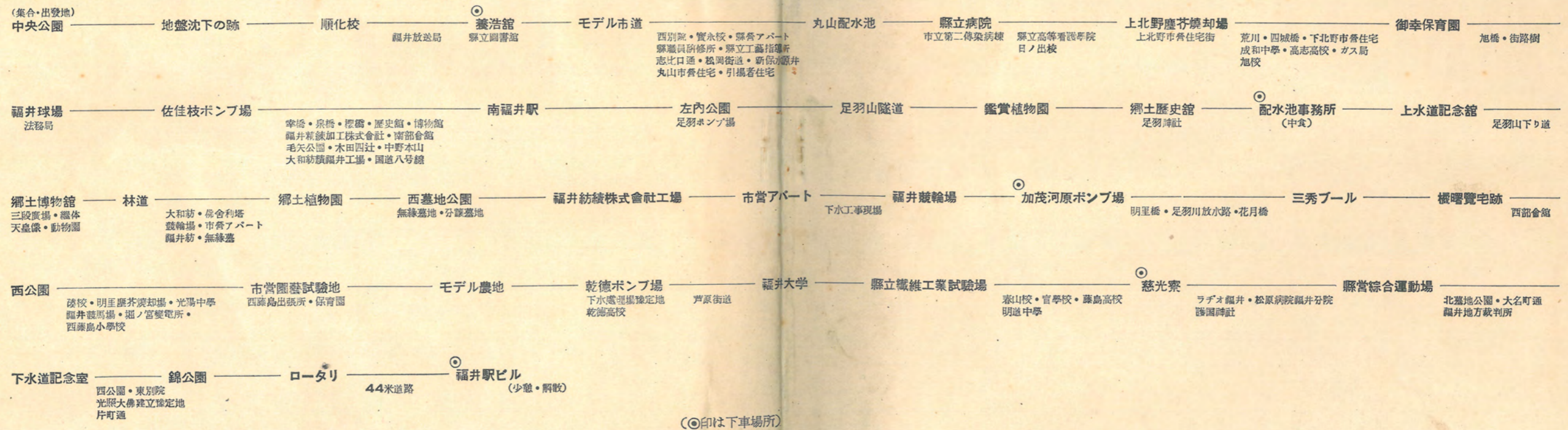
市史をひらいてみますと、過去の福井市は数々の災禍を蒙り、これらを雄々しく乗り越えてきたことを知りますが、特に現在の福井市民は、わずかここ八、九年の中に、戦災・震災・水害・風害と矢継早に未曾有の大災禍を体験いたしました。しかしこれを貴重な体験として市民の復興意欲はたくましく、不退転の意気を以て三たび四たびの廢墟の中から立ち上りました。それこそ血のにじむような苦難と努力の幾年かでしたが、いまや人口も戦前の最高を超え、劃期的都市計画の断行、改良下水道の大事業、道路の整備舗装、公園緑地の設定等、諸施設の完備と相俟つて、市街は全く面目を一新し、明るい希望の下に真に文化的近代都市の完成へ、着々そのあゆみをつづけているのです。



(写真は足羽川畔より幸橋と復興の松を望んだもの)

MEMO

ふくいめぐり順路





県庁



市庁舎



地盤沈下の跡

震災記念碑の後に「地盤沈下の跡」があります。大震災の際、この市役所前は、約一米地盤が沈下しましたが、その当時の模様を永久に記念するため、一部分を仕切つて柵を施し、当時の状態のまゝに遺したわけです。惨澹たる震災のあとはずつかり復興致しましたが、この「地盤沈下の跡」を見れば当



市議事堂



市公會堂





福井市消防署



福井警察署





市営弓道場



中央公園

この公園は、都市計画によつて設定された公園の一つで、総面積は約二万平方米。道路をはさんで、東西二つに分れて居て、西の方(福井新聞社前)には、日本式庭園、市営弓道場があります。東の広い部分は、進駐軍の接収によつて、工事着手がおくれていましたが、今はすっかり建物も取り払われましたので、いよいよ今年より本格的な公園化の工事に着手し、三年後には福井市の中央公園として恥しくない、立派な施設の公園が出来上ることになつて居ます。



図書館



法泉水コート



雪の法泉水

養浩館

此処は旧福井藩主松平家の別邸で、俗に「お泉水」と呼ばれているところ
 ず。戦災、震災で荒廃したのを今回復元致しました。この土地は松平家と旧
 福井中学校の同窓生の集りである明新会との共有地であり、その管理は一切
 市に委せられている処で、今度明新会の協力の下に養浩館及び明新会館の建
 設を見たのでありますが、文化史的香りの高い旧養浩館の顕彰の意味も含め
 て、広く一般に公開し主として文化的な催しに御使用願うことになつたので
 す。尚今後この庭園内に樹木の数も加え、七〇〇坪にあまる幽邃な大泉水と
 共に数年の中には市民のための優雅な観賞遊歩の庭に作り上げて行きたい考
 えます。(御泉水を越えて向うに県立図書館が見えます)



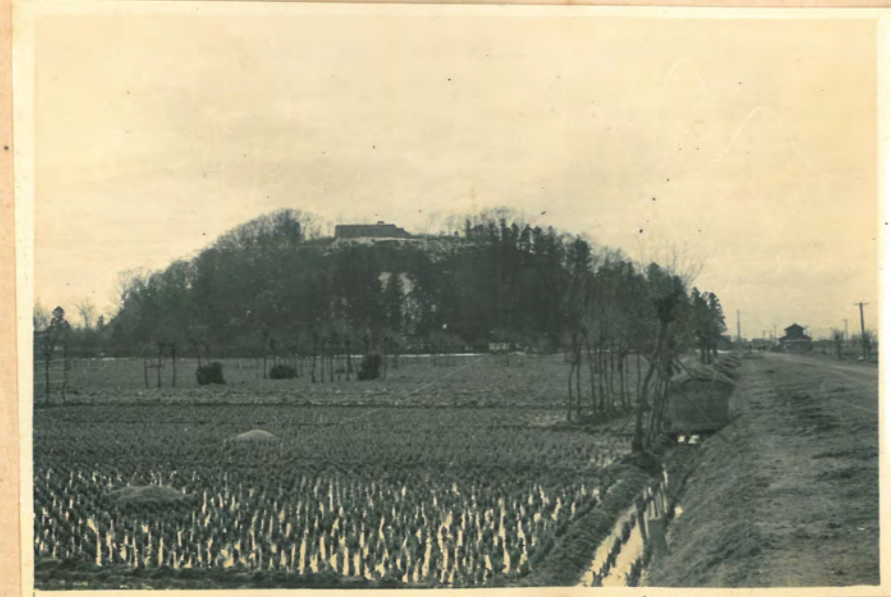
第一水源井 (南谷)



丸山配水池



第二水源井 (新保)



丸山(頂上の建物が配水池)

丸山配水池

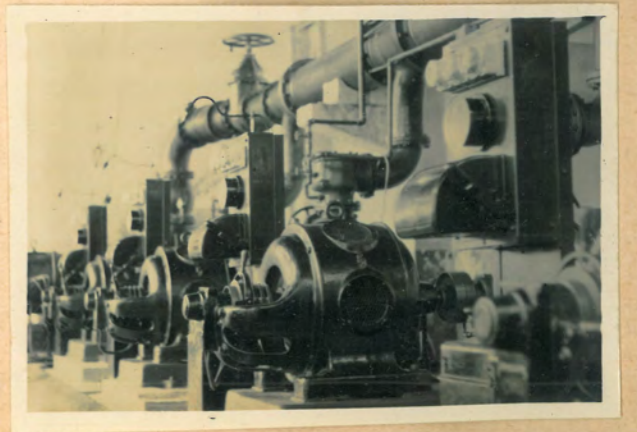
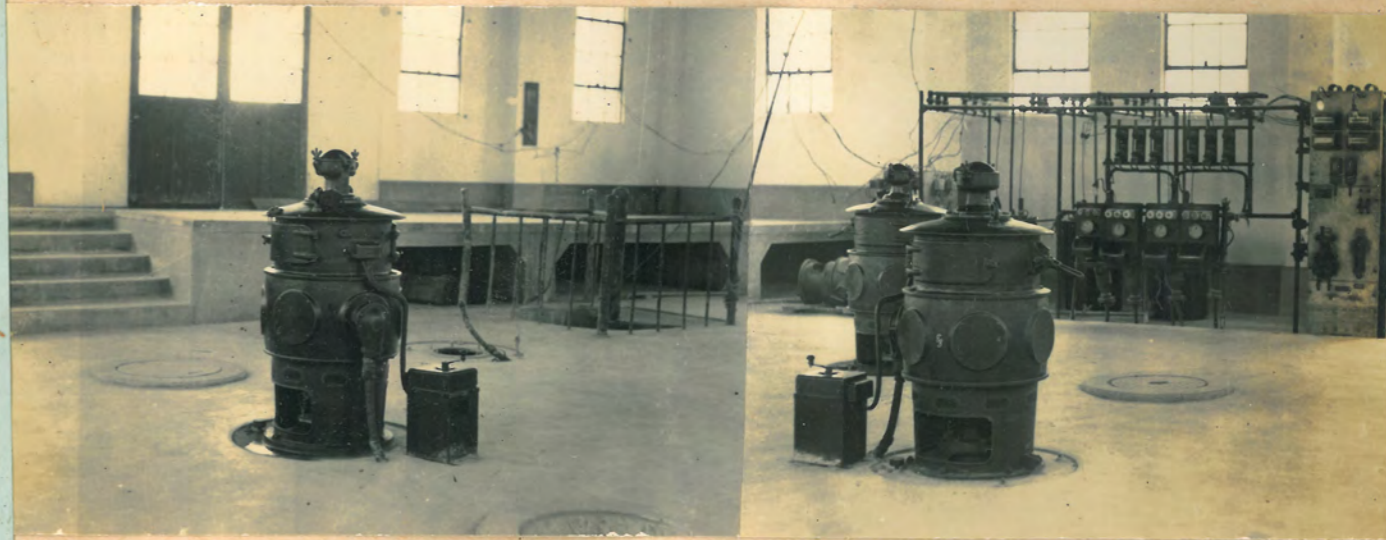
福井市の上水道は、大正十二年創設以来橋南板垣町方面にある五つの井戸を水源として最近まで、実に三十二年間を経て来たわけで、全国水道界でも、奇蹟的だと云われていた位ですが、市では現在並に将来の市勢の発展(人口増加、水道使用量の増大等)に即応する給水の円滑を期するため、去る昭和二十五年総工費五千八百万円を以て、この丸山地区に新しく水源拡張事業を計画し、開発に第一水源井、新保に第二水源井を作り、その水をこの丸山の頂上へ上げて貯配水するために、今回この丸山配水池を造つたわけです。この十月一日竣工式を挙げ、目下既に市内に給水開始しています。

この二つの水源井及び配水池の完成によつて、本市の上水道の給水能力は一日二万一千立方メートル(従来は一万八千立方メートル)に達し、今後停電その他の事故にも充分な安全度を有するに至ると共に、これまで処によつて水の出がわるく不便を感じていた点はこれで一応解消したわけです。更に又この附近の丸山地区は従来地勢が平坦で良質の水にめぐまれず芝原用水の水を飲用していたような状態で、伝染病の発生も高率だつたのですが、今後水道管が布設され、この丸山配水池から直接給水されることによつてこの憂いも解消してゆくわけです。配水池へ登つてゆくこのセメントの階段は二百三十一段あります。





一本木水源池



揚水ポンプ場

縣立病院

之は以前の精神病院をもとにして出来上つた県立の病院ですが、この病院に
附設して、市の第二傳染病棟があります。

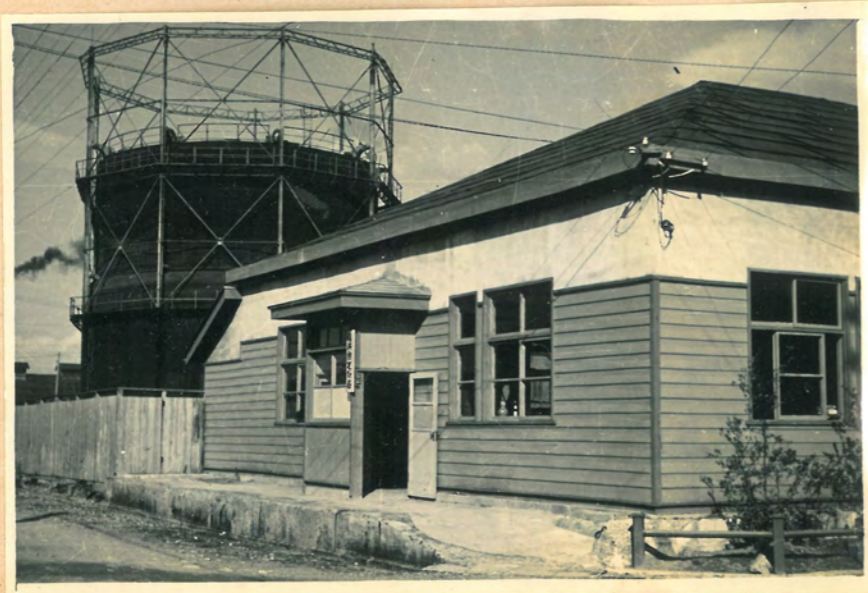


市立第一傳染病院





上北野市営住宅（この辺一帯が上北野市営住宅街で、お隣りの下北野市営住宅街と合せて約三〇〇余戸、市内一五〇〇戸余の市営住宅の中最も多く集っている地帯です）



ガス局



上北野塵芥焼却場

福井市には此処と、明里町とに、二カ所の塵芥焼却場があります。毎日皆様の家庭や作業場で排出されるゴミの量は実に一万三千五百貫にも達しますが、市ではトラック七台、牛車六台其の他を以て毎日これを蒐集し、この焼却場へ運んで、焼却しているのです。
このカマの火は一年中消えることなく、たえずもえつゞけて私達の街を美しくするための大きな役割を果しているのです。それからあの煙突も大震災には折れてしまったのを、御覧の様に復旧したのでございます。



明里塵芥焼却場



御幸保育園

現在福井市には市営の保育園が十三カ所出来上りました。この御幸保育園もその一つです。市ではこのような保育園設置の要望にこたえるため、今後更に増設計画をすゝめ、少くとも二十カ所以上にしたいと考えています。保育園は、皆さんよく御承知のように、小学校へ入る前の児童の準備教育を施す、所謂幼稚園とはいさゝか趣旨を異にするもので、働きに出る人達の御子さんを預つて保育し、そういう人達の生計を側面からおたすけすることを目的とした所謂「社会事業」施設の一種なのです。従つてどこまでも先づそういう目的にそつと児童を優先的に収容して、猶お余裕があれば一般の児童を定員の範囲内で収容することになつて居るのであります。現在本市の保育して



街路樹

昔の城の橋通りと較べますと格段の差があります。両側の並木はアカシヤで、処々に南京ヘゼが混つて居ます。当市は戦震災ですべての立木を焼失しましたが、復興が進むにつれて、市民の「緑」への憧れは日増しに高まつて参りました。市は一日も早く市街緑化の促進を願う気持から完成された大街路には、国道道へも積極的に街路樹を植えることに努力し、現在迄に市の植樹は約三、〇〇〇本に達して居ります。然も特にその木の種類に工夫を加え、市内各所にさくら、とち、アカシヤ、プラタナス、柳、いちよう、南京ヘゼ、百日紅、ユリの木、かつら、こぶし、むく、ポプラ、松、もみぢ等その種類の多いことは全国にも稀なものといわれています。

城橋通り(アカシヤ)



駅前南通り(ヤナギ)



大島所(ポプラ)



波達町前(さくら)



駅前西四米道路(南京ヘゼ)





福井球場（東公園）

健康にして明るい福井市の復興のために、戦災後又は震災後福井市には今まで無かつた多くの市営スポーツ施設が出来上りましたが、この球場もその一つで、元の福井師範校の跡に都市計画によつて出来上つた東公園の一部に建設されたものです。之が出来上つたのは震災直後の昭和二十三年十月で、そのときは荒廢した市街に明るい窓が出来たといわれました。施設は今の処十分ではありませんが、大きさにおいては東京後樂園球場に匹敵し公式試合にも充分使用し得る広さをもつて居ります。

この球場を含めてこの公園を東公園と言つていますが、市内の公園の中でも最も大きいもので球場外苑には公式バレーコート、小野球場、児童公園等が併設されています。

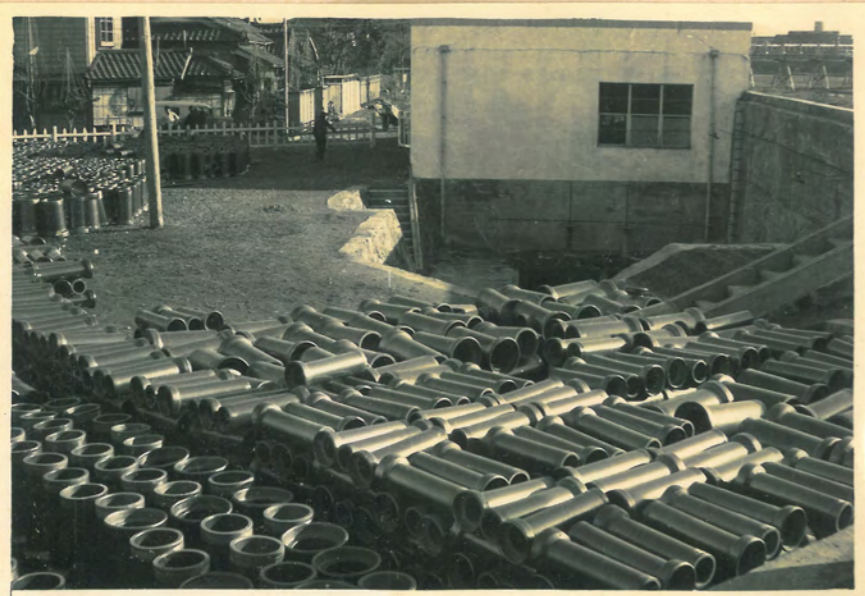


佐佳枝ポンプ場

改良下水道事業の一部として市内に四カ所のポンプ場が出来ることになっていますが、既にこの佐佳枝ポンプ場と、のち程御案内する足羽ポンプ場、加茂河原ポンプ場の三カ所が既に完成し、目下乾徳ポンプ場の建設中です。

この佐佳枝ポンプ場は橋北第一分区の下水を集め、平時は、集つた汚水を汚水ポンプによつて更に乾徳ポンプ場へ押し流し、雨が降つて汚水の濃度がうすくなつた場合は自然排水又はポンプによつて直ちに足羽川に押し出す仕組みになっています。

本市の下水計画は一時間三〇ミリ、一日七百二十ミリ位の豪雨でも優に排出し得るよう立ち立てられています。従つて完成の時は下水計画区域以外からの浸水、又は荒川、足羽川、日野川等の溢水がない限り、市内はいかなる豪雨の場合も絶対に水害がないことになるのです。





幸橋、

福井精練加工株式会社、



中野本山（真宗三門徒派の本山で専照寺というより中野本山という名で親しまれている県内真宗四カ本山の一つであります。戦災、震災にもその厄を免れ、戦前の広大な寺院建築を偲ぶ唯一のものであります。



大和紡績株式会社福井工場（此処は大和紡績株式会社福井工場です。戦前一六六、四四〇鍾織機九七八台を誇った大工場でありましたが、戦災により一旦全滅いたしました。その後会社が復興に着手し、先づ三五、八〇〇鍾織機六三〇台を備えて操業を開始しましたので、本市に於てもその増設を促進するため、市税を減免したり、側線敷設に積極的に協力したり、色々尽力しました結果、今や鍾数も三三八、一六四鍾、織機一、六〇八台に拡張され、数ある大和紡績の諸工場中最大、又我が国全紡績工場中에서도第四位と称せられます。

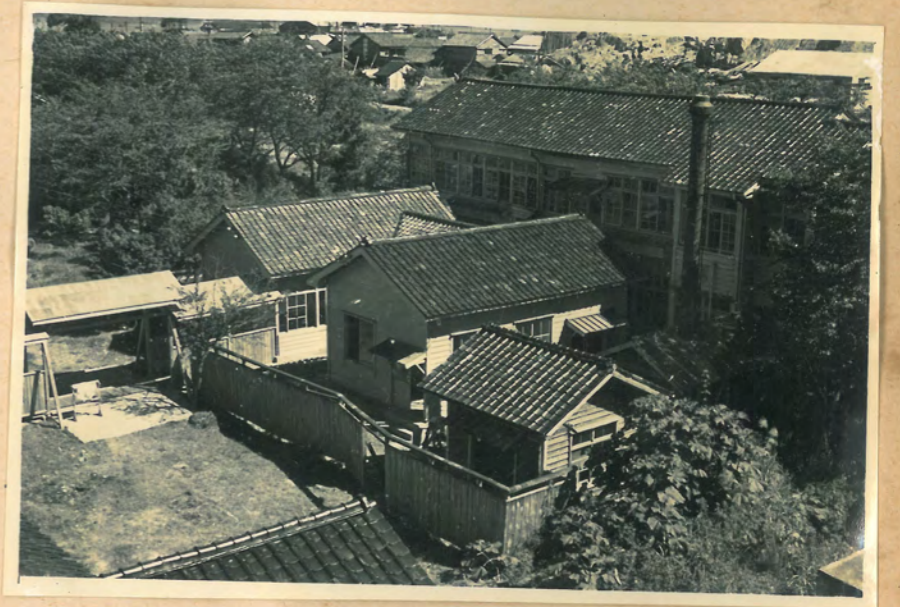


国道八号線（この南北に通ずる道路が、昔の北陸道、国道八号線であります。北は大名町幾久を経て森田、丸岡に及び、南はつと神明町まで完成しています。福井県の大動脈として全線開通も遠くないことと思えます。右に見えますのは旧国道で、これを添って日赤病院がありますが、その幅員を比べて見て下さい。）





日赤病院



市立第一傳染病院



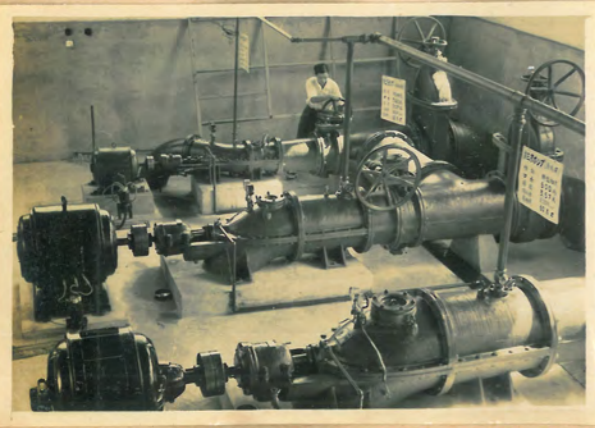
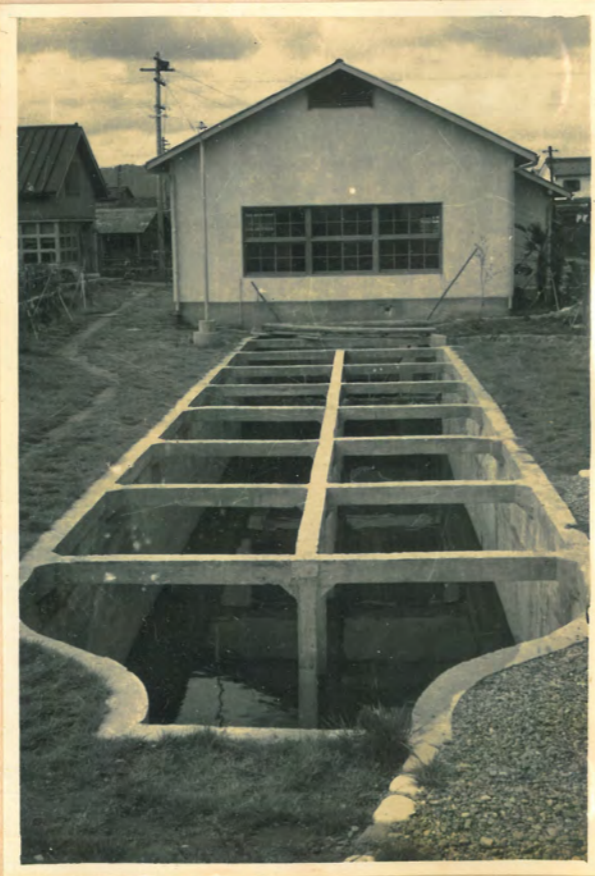
南福井驛

福井駅改築の重要な一環として貨客分離が実現し、昨年来この南福井駅で、貨物のみを取扱うことになりました。こゝで取扱う貨物は一日平均一千トンです。



左内公園・足羽ポンプ場

此処は左内公園と言い、これまた都市計画によつて新たに出来た公園の一つです。相撲場、児童遊戯施設等が設置してあります。橋本左内先生の墓が向うに見えますが、これは戦震災によつて破損したのを、本市が史蹟顕彰の一環として修復したものです。それから「奥の細道」で知られている芭蕉が福井に立寄つた際、二晩とまつたという家のあともこの公園の一角にあるので、近く史蹟顕彰の碑がたてられることになっています。右には、橋本第一分区の下水を足羽川へ排出する足羽ポンプ場があります。





さくすべり花



むくげ苑



足羽山隧道

この隧道は、過般地震の際地盤の落下によつて埋没いたしました。昭和二十三年の十二月より、経費一〇、九五四、〇〇〇円を投じて復旧工事を行い、二十五年三月竣工貫通を見たものです。トンネルの長さは二一〇米、幅は六、五六米、足羽小学校、鶯谷市営住宅方面へ通じています。



つじ苑

鑑賞植物園

足羽山は古来福井市民にとつて唯一の自然公園として親しまれて来たところですが、これを更に市民の公園として真に価値あるものにするため熊谷市長の発案で、全山の植物園化を計画し、数年前から鑑賞植物園、郷土植物園、見本植物園の各区に分け夫々その整備に着手し、最近漸く鑑賞植物園だけ一応の完成を見たのであります。この辺一帯が、その鑑賞植物園で、さるすべり、山吹、はなすおう、あじさい、むくげ、つつじ等総計二八、〇〇〇本が一定の計画により植え込まれてあります。将来は市内からこの足羽山を眺めれば、四季夫々に花の聚落が遠望せられるようになるわけです。

郷土歴史館

郷土博物館と共に茨の道を拓きつゝ進む福井市の復興計画に一つでも文化の
 うるおいを加えたいと、ツルガセメントからの寄附一千万円を基本にして建
 設されたもので、一階には主として、近世以降の郷土の先哲の遺品遺墨を展
 観し、貴重な研究資料を提供しており、階上は古代より現代に至るまですべ
 て近代的感覚と最新の展示技術を以て表現し、一巡してよく郷土史の概観を
 理解し得るように新工夫を加えています。御暇の折ぜひ一度御巡覧下さい。



郷土博物館

一昨二十七年春、福井博を機に出来上つたもので、総工費約二、二〇〇万円
 一階は生態陳列室、二階には動物展示室、三階には植物、地質、鉱物等の展
 示室、屋上には六吋屈折望遠鏡を備えた天文台があり、全国にも珍しい文化
 施設で、復興福井市の誇りの一つと云えましょう。



左内先生像



さくら咲く頃





足羽山から復興の初井市街を視る

標本陳列 (2.3階)



春



夏



秋



冬

生態陳列



上水道記念館



内部の大壁画



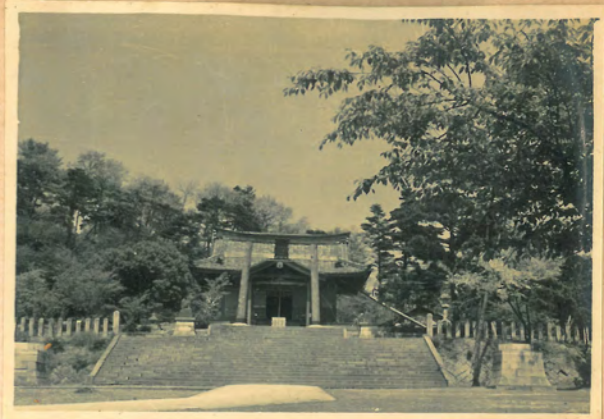
足羽山配水池事務所



足羽山配水池



香取の足羽神社



足羽神社



おふ山



さくら坂



新緑の坂



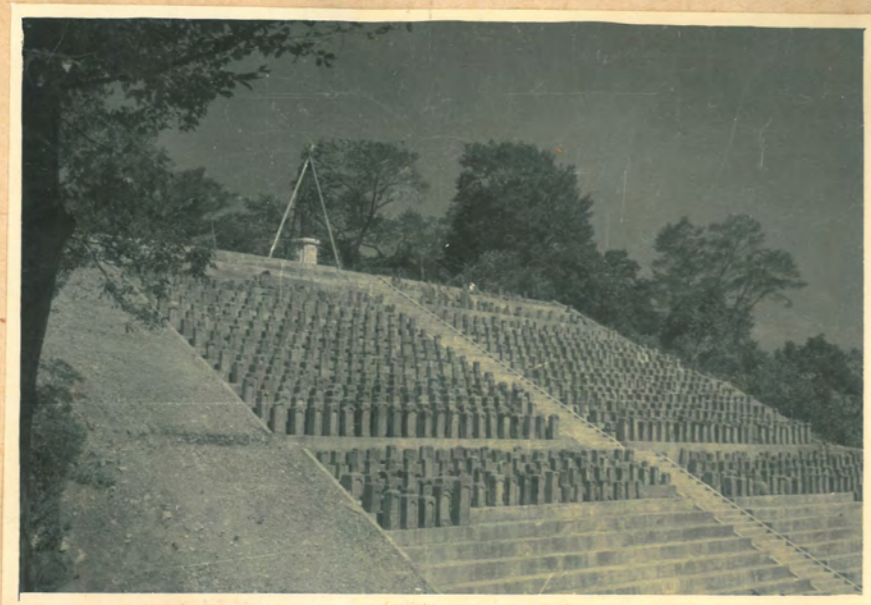
秋ふかき坂

足羽山

鳥居



鳥居園



西墓地公園

この辺一帯は西墓地公園です。これまで市内各所に散在していた墓地を都市計画によつて四カ所に集め、明るい墓地公園を造成する計画を立てましたが、その四つはこの西墓地公園、西別院の近くの北墓地公園、足中山にある東墓地公園、足羽山麓の唯称寺近くにつくられた足羽墓地公園——そのうち最も大きいのがこの西墓地公園で、面積は一一七、四九四平方米、こゝに集められた墓数は約一万余に及んでいます。過日この墓地の一角に無縁墓四、三七〇墓（既に集められたものは約一、〇〇〇墓）の供養に聖観音像の建立を見ました。

今後更に数ヶ年を費して整理をつゞけ福井市の先達を祀るにふさわしい優雅な霊園にする計画を立てています。

こゝでは分譲墓地を設け御希望によつて墓所としての土地をおわけすることになっています。

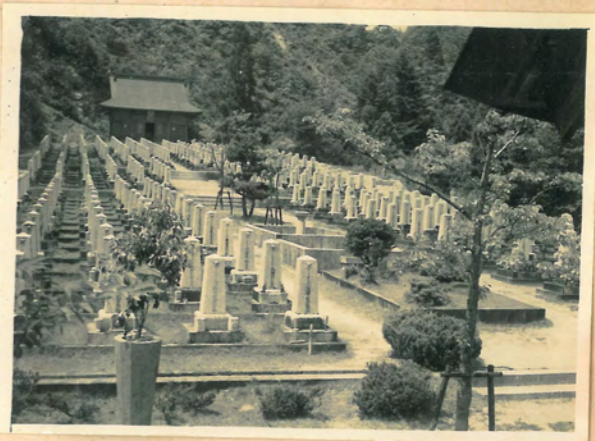


足羽山林道





市営火葬場



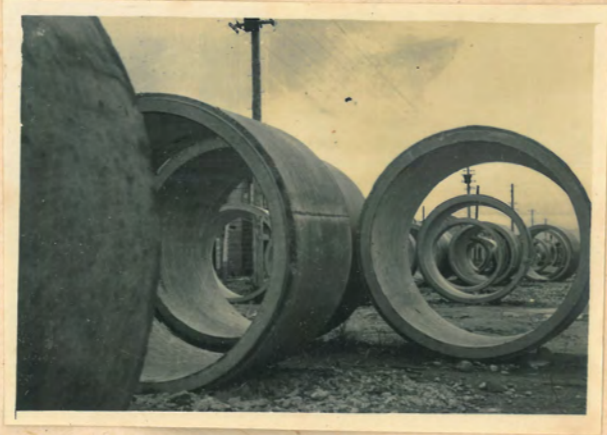
中野墓場

福井紡績株式会社

福井県機業界の振興対策の一つとして、重要な使命を帯び昨年九月一日誕生したもので、県市夫々一千万円の出資をしています。操業以来順調な経営を続けていますが、現在一五、一二〇錘メフ原糸月産二五万ポンドを数え県下の機業界に貢献するところ大なるものがあります。



福井紡績株式会社



並ん並七二の管



市営アパート



下水工事現場



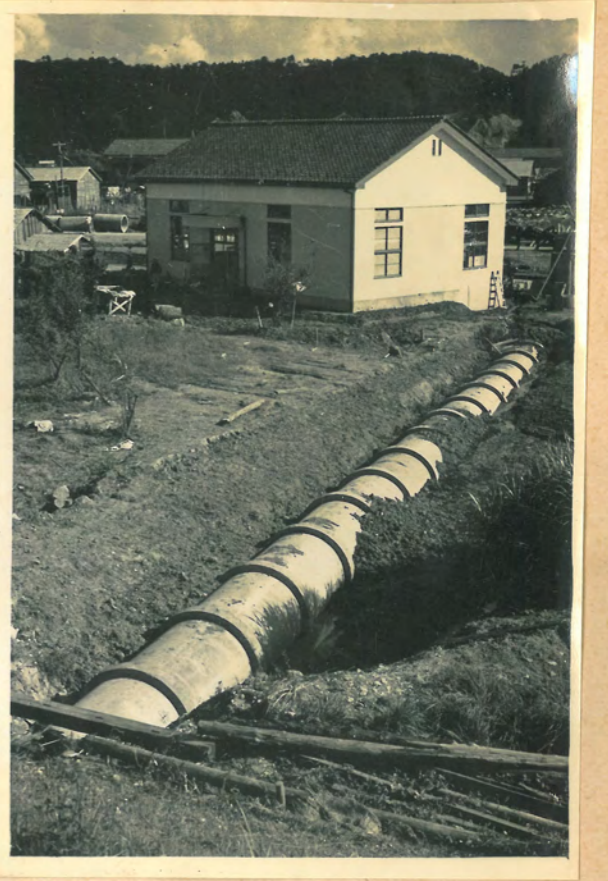


福井競馬場



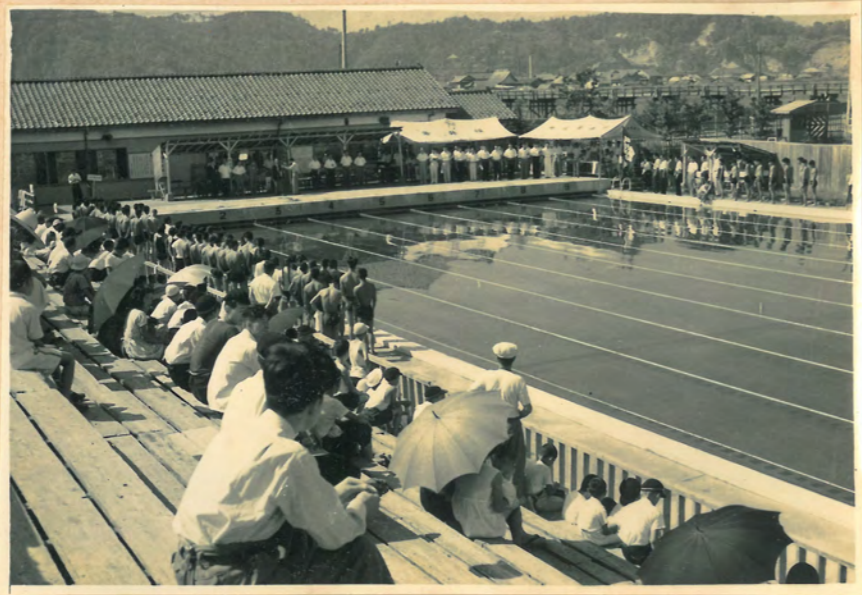
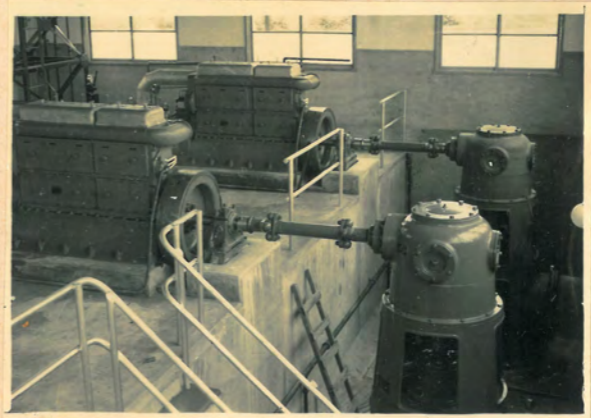
福井競輪場

市財政の打開と市勢の発展を目的として、昭和二十五年五月より開設したもので、敷地は約九千坪、収容人員一万二千、場内は入場者のサーブイスを主眼として庭園化し、施設の充実した点に於ては日本一と言われています。
 〃明朗福井競輪の名にふさわしく、開設以来他の競輪場で見ると異なるような事故やいまいましい事件は皆無で、極めて明朗円滑に開催を続け年間四千万円に及ぶ収益は窮乏にあえぐ本市財政の大きな助けとなっています。



加茂河原ポンプ場

(既に御覧の) 佐佳枝ポンプ場、足羽ポンプ場と共に改良下水道四ポンプ場の一つで、こゝでは橋南第三分区分立矢地区一帯の排水を担当しています。このポンプ場は佐佳枝、足羽と違って、ディーゼル機関による堅型軸流ポンプを使つて居り、下水処用としては全国で初めての試みであつて、災害時にはつきものの停電による心配が全くない理想的なものであります。新設の乾徳ポンプ場は、この種の更に大型のものを据付けますが、他の二カ所も追々ディーゼルに切替える様考えたいと思つて居ります。



三秀プール

最新式公認プールとして計画し、福井藩の家老松平主馬の別邸跡であつた三秀園の敷地一、八〇〇坪に、工費一千四百四十万円を投じて、昭和二十四年四月工を起し震災一周年目の六月に完工したものです。中には五〇米の一般用プールと子供のための小プールがあり、夏季には多数の利用者で極めて盛況を示して居ります。





西公園

この西公園も都市計画によつて生れたものの一つで、第三種公認陸上競技場、一般に西公園グラウンドとして親しまれているところです。面積は約一万四千平方米、トラック一周三〇〇米、収容人員一万二千五百人、となつています。市営のスポーツ施設としては、このグラウンドの外に（既に見ていただいた）弓道場、福井球場、ベレーコート、相撲場、三秀アール、御泉水、テニスコート等があります。

園藝試験地

市営の園芸試験地で、此処では蔬菜類や花の試作を行い、特に温室による速成栽培を行つて大変よい効果を挙げています。其の他品種の試験栽培も行い、農林地区の蔬菜指導等に少なからぬ貢献をしています。面積は約九百坪です。



福井大 學

福井大学はもと工学部と学芸学部が夫々福井市と神明町に分れていましたが、県下唯一の福井大学が、分離されていることは極めて不適當であり、大学自体の利便のためにも、又将来の拡充強化のためにも更に又福井市の発展という意味からも両学部の統合が望まれていましたので、市では、県と相はかり、この実現達成の目的を含めて、過般福井博の開催を計画し、その会場敷地一万余坪をそのまま大学に提供した結果、先程多年懸案の両学部の統合が実現し、その後漸時建物も増設され、今日の充実を見るに至つたのです。



縣立纖維工業試験場

博覧会を機会に総工費五千万円で出来上つたもので、特に本県纖維工業の発展に貢献する所の多い近代的な施設であります。



福井市第一社會厚生園「慈光寮」

福井市に於ける最大の社会事業施設で、もと西別院経営の慈光園といわれている児童は一才から六才まで総数一、二二七名保育に当る保母は四〇人に達して居ます。





明道中学校



下水道記念室

この下水道記念室は、福井市復興のための劃期的大事業たる改良下水道事業を永久に記念し、地下の大施設をすべての人に認識し理解して貰おうという目的で作られたもので、この地下室へ入って見ていただきますと、T字型に交錯している一八〇〇ミリ、一五〇〇ミリ、一三七〇ミリ等の巨大なヒューム管を初め上水道管、瓦斯管等の地下埋設状況が一目でわかるようになってきます。この下水道記念室は、福井市にとって貴重な記念室となつてはいるばかりでなく、全国でも珍しい施設として広く話題に上つています。





ロータリー

本町と大名町の交差点に設けられたロータリーで、近代都市福井のシンボルとも云うべきものです。中央に市章を型どつた二つのが噴水が仕つらえてあります。(ここから福井駅前に至る道路は幅員四四米で福井市内で最大のものです。)

錦公園

都市計画によつて作られた小公園の一つで、こういう公園が市内に三十二カ所出来上り、夫々遊戯具が置かれ、又はきれいに造園されて、老幼者のこよなき遊び場、憩いの場となつてゐるわけです。



福井地方裁判所



福井驛ビル

福井市の復興、特に都市計画の進捗に併行して去る昭和二十七年春、時恰も永平寺の大遺忌、福井大博覧会の開催等を機として新築されたもので、最も近代化された民衆駅として全国に誇り得るものであります。御承知の通り、一階は駅舎（公衆部）、二、三階は民衆部で、二階には仮眠室、売場、食堂等があり、三階にはホテル、食堂、事務所等があります。このうち仮眠室は全国の駅でも珍らしい施設で利用客に大変重宝がられています。戦後に生れた駅のうち最も美しいデザイン―北陸線の宝石ともいふべきか、雪深い冬の夜コローネのあたりを歩いてみたい！と、かの有名な工芸史研究家の勝見勝氏が（「旅」四月号）感慨をのべている通り、復興福井の表支関にふさわしい洗練された近代建築美を呈しています。

尚の此の民衆施設の為、一億一千万円の民間資金を要しましたが、之は本県財界有志の奉仕的協力による福井ステーションビルの設立によつて賄つた次第であります。

夜の足羽山（足羽りやま）

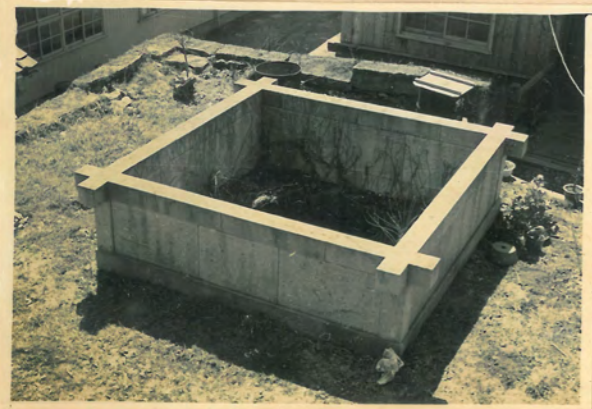


福井市の史蹟

名称	所在地と概要
① 天守閣跡と福の井	御本丸町・北の庄城を福井藩祖徳川秀康が改築して天守閣をきづいたその址である。福の井は古くから名井としてここにあり、この名に因んで北の庄を福井と改めたと伝えられる。
② 北の庄城跡	佐佳枝上町・柴田勝家の創設した北の庄城本丸址である。
③ 明新館跡	大手町・福井藩学校明新館のあつた処である。後年福井中学が設けられ昭和十一年迄ここに在つた。
④ 異人館跡	佐佳枝上町・明治初年藩校明新館に教師として招かれた米人グリフィスの居館のあつた跡である。
⑤ 中根雪江宅跡	宝永上町・幕末福井藩の名主松平春岳帷幕の老臣として知られた雪江中根の宅跡である。
⑥ 笠原白翁宅跡	宝永上町・幕末福井藩の名医で、我田種痘の先導者として功績ある笠原白翁が居住した公立除痘館跡である。
⑦ 橋本左内宅跡	大和上町・大西郷を心服せしめた幕末福井藩の鬼才橋本左内の宅跡である。
⑧ 九十九橋	照手上町・往昔半石半木の奇橋として知られた橋で、昭和八年現在のコンクリート橋に改められた。
⑨ 橋曙寛宅跡	花月上町・薬屋の名で呼ばれた歌人橋曙寛の宅跡である。曙寛は三十七才の時定羽山からここに居を移し、病歿する迄二十一年間家族と共にここに過ごした。歌にあらわれる井戸側は今なおここに形を存している。
⑩ 三秀園跡	照手下町・福井藩の家老松平主馬の築造した別荘三秀園の跡である。
⑪ 岩佐又兵衛墓	尾上上町・土佐派の浮世絵師岩佐又兵衛の墓である。
⑫ 加藤寛治の生誕の地	豊島中町・名将加藤寛治の生れた処である。
⑬ 養浩館跡(お泉水)	宝永中町・当館は旧福井藩主松平家の別邸で俗にお泉水の名で呼ばれている。書院風致奇麗造りの風雅な建物があつたが戦災で焼失した。
⑭ 鈴木主税宅跡	日の出下町・幕末の名主松平春岳の股旅の臣として活躍せる鈴木主税の宅跡である。
⑮ 岡田啓介	日の出下町、元総理大臣岡田啓介が生れた処である。



河岸保地





橋曙寛宅跡

郷土福井の産んだ偉大な歌人、橋曙寛の宅跡です。曙寛は三十七才のとき足羽山（今の五岳楼のある黄金の舎）から居を移し、五十七才で病没するまでの二十一年間家族と共にこゝで過したといわれます。洗う如き赤貧の中にも人間的愛情と心豊かな生涯を送った曙寛が膝入るゝばかりもあらぬ草の屋敷を竹にとられて身をすぼめ居り々と詠んだ名歌が、歌人結城哀草果氏に選ばれ、歌碑として奥の方に建てられています。又々濡れし来し妹が袖干の井の水の湧き出るばかりうれしかりける々と詠んだ有名な袖干の井戸側は、向つて左の方に、今も尚遺つています。

尚、市では戦災以来、新しい市街の建設を機会に従来埋れていた史蹟の全般的な復興顕彰を図り、之を公的管理の下に置いて、永く郷土にのこすことを思い立ち、昭和二十三年度からこの事業に着手し、現在迄に二十七カ所の史蹟の顕彰を終えましたが、更に四カ所を予定しています。

